

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370104855
法人名	社会福祉法人 リデル・ライト記念老人ホーム
事業所名	グループホーム カムさぁ
訪問調査日	平成 20 年 3 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 17 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4370104855
法人名	社会福祉法人 リデル・ライト記念老人ホーム
事業所名	グループホーム カムさあ
所在地	熊本市龍田陳内三丁目37-7 (電話) 096-337-2941

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年4月17日

【情報提供票より】(20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	14人	常勤	13 人, 非常勤	1 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,750 円	その他の経費(月額)	水光熱費18,900円+個室電気代	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	262 円	昼食	367 円
	夕食	420 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	67 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江南病院 ピネル記念病院 伊東歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史ある母体施設の精神を受け継ぎ、職員が信念をもってケアに当たっている。系列法人の持つ老人介護のノウハウを生かしつつ、グループホーム独自の観点で運営している。入居者サービスの質の向上・職員育成に「考えて行動する」ことを基本にした指導が確立しており、根拠に基づいた観察力を活かし、表現力の乏しい入居者の動き、しぐさを観察し、利用者本位のケアが実践されている。職員が自信を持ってケアに当たっており、入居者の笑顔や明るい雰囲気となって表れ穏かな生活が営まれている。日常的な外出や地域行事への参加又併設のデイサービス利用者との交流等が行なわれ、ホーム周辺の掃除等地域の一人として一役を担っている。地域福祉の向上に寄与しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価より課題を直視し、全職員に無事故を目指したケアを展開するためアンケートをとり、改善を図るなど、常に高い意識で臨んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員が個々に行ない、日々の業務を客観的に見つめ直し、一人ひとりが考え行動する指針と考えている。自己評価することは一大イベントと位置づけ長時間話し合っ管理者がまとめあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の参加者は、家族会代表・老人会代表・町内児童会委員・地域居宅介護支援事業所代表・包括支援センター代表・同グループホームより所長・管理者・計画担当者・職員代表など多岐に渡り、グループホーム運営上重要な会議として位置づけ、委員からの意見をホーム運営に反映させている。また、外部評価に関しての報告・事故発生の報告(ヒヤリハット含む)又、入所判定委員会も同時に開催している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月入居者の健康状態や生活ぶりを写真入で報告している。また、体調変化時等は随時連絡を取り、家族と連携して取組んでいる。家族にはモニタリング時に書面で意見を提出してもらい、運営推進会議を通じて苦情解決を図っている。また、ご家族の訪問時の報告や遠方のご家族には手紙で近況報告されるなど信頼関係が構築されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流を通して、グループホームの持つ役割等を地域への啓蒙活動に活用している。運営推進会議での認知症に関する勉強会も活動の一環であり、その他、入居者・職員を交えて地域の小学生・中学生との交流や年2~3回の保育園と合同行事が行われている。日常的にも散歩時の挨拶やホーム周辺の掃除、農園での活動等地域とのふれあいの場となり、地域の一人として一役を担っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念をもとに、地域の中でその人らしく暮らし続けるをホーム理念とし、入居判定シートを使い、地域の方を優先入居とする等地域に密着した生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念を日々事例を通して職員に指導し、職員は業務中も理念に照らし合わせての行動を省みている。理念を玄関やタイムカードの横に掲示し、就業前に目を通し、理念の実現に真摯に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域サロンや地域イベントへの参加又地元での買物等地域での生活が拡充されている。日常的にも散歩時の挨拶やホーム周辺の掃除、農園での活動等地域とのふれあいの場となり、地域の一員として一役を担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が個々に行ない、日々の業務を客観的に見つめ直し、一人ひとりが考え行動する指針と考えている。自己評価することは一大イベントと位置づけ長時間話し合っ管理者がまとめあげている。昨年度の外部評価結果を踏まえ、全職員に無事故を目指したケアを展開するためアンケートをとり、改善を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、パワーポイントを利用して行事報告、職員紹介、認知症に関する問題点、ケアプラン等を説明すると共に、出席者の意見を生かしサービス向上に反映させている。また、会議録は職員全員に公表している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢福祉課が実施するサービス相談員の意見をもとに運営・サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の健康状態や生活ぶりを写真入で報告している。また、体調変化時等は随時連絡を取り、家族と連携して取り組んでいる。モニタリングにも家族が参加されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはモニタリング時に書面で意見を提出してもらい、運営推進会議を通じて苦情解決を図っている。またご家族の訪問時の報告や遠方のご家族には手紙で近況報告されるなど信頼関係が構築されている。外部評価でのアンケートも意見や不満を収集する機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者への影響を考慮し、頻繁な異動は行われていないが、異動時には新任の職員が入居者の状況を把握し、馴染みの関係を築くまで重複する期間を作っている。離職はほとんど無く、馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所長・管理者は職員育成に積極的で、内部研修はもとより、職員のスキルに応じ外部研修の受講を出張形式で勧められる。また、業務中も職員育成を目的に考えて行動する教育がなされ、質の向上を視野に入れた指導がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市のグループホーム連絡協議会に参加している。職員の育成を目的に地域のグループホームとの相互交流を行う意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を前提に併設のデイサービスの利用から始められている。同グループホーム待機者がデイサービスを利用する事で職員との関係を築き、入居者には相乗効果と日常生活の活性化が果たされている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、入居者の生活観・人生観に触れながら生活の知恵を学んでいる。入居者の高齢化、要介護度の上昇のなか、利用者が何を求めているか、何を行いたいかを見極め、できる範囲でお互い支えあって生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員指導の一つに、“考えて行動する”ことの必要性が重視されているが、そのことにより職員の根拠に基づいた気づきや寄り添いの実践となって表出されている。意思表示の困難な場合も表情や動作から察知し、本人本位になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者のニーズ、家族の意向を踏まえ、3ヵ月毎のモニタリングやカンファレンスを行い、家族への説明が行われ、家族の意見もプランに反映させたチームアプローチが展開されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにモニタリングを行い、入居者の現状に即したプランになっているか十分な話し合いがもたれ、結果を家族に報告し、変更が必要な場合は早急な見直しを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設の支援はもとより、同敷地内のデイサービスや就労支援事業所等と様々な形でお互いの協力体制が確立している。又、管理者はホームに関わる入居者・家族・職員一人ひとりの力がホームを形成しているということも多機能性と考え支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の意向をふまえ、入居前よりの主治医と連携を図っている。法人代表でもある医師による24時間医療体制の確立と協力病院による夜間対応等医療面での充実した支援が行われている。病院受診は基本的に家族対応としているものの必要があれば看護職員が同行したり、病院で家族と待ち合わせるなど、適切な対応が取られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだターミナルケアの事例はないが、ホームとして“重度化の指針”を作成し、家族に提示している。昨年度より終末期に向けた取り組みを開始し、全職員にアンケートを行い体制作りを進めている。	○	重度化した場合の主治医との連携や24時間緊急時対応の連絡体制が確立しており、ターミナルに向けた職員間の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として入居者を心より敬い尊重する姿勢は、ありとあらゆるところから窺われる。個々との関わりを大切に、それぞれにあった対応となっている。差し支えない部分であれば記録物を希望される入居者に、あえて掲示するなど入居者の知る権利も大切に支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今すべきことは何かを念頭に、入居者がそれぞれのペースでその人らしくするために、介護者として何ができるか常に模索している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本を見ながら入居者と共に献立を決めている。買物には毎日入居者に同行してもらい外出の機会としている。重度化に伴い調理への集中力がなかなか継続できないものの、できることを見守りゆっくり支援している。主菜も魚か肉など入居者に選択の場面を作り、楽しい食事風景となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日支援している。1日2回入られる入居者にも柔軟な対応をしている。中には拒否の方もおられ、説明し納得された上で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者や職員は日頃から入居者に対してストレスがたまらないよう支援している。それには職員の気づきが不可欠であるとの考えから入居者の“今”を知る努力をしている。個々の役割も畑仕事をされたり料理作りを手伝われたり生き甲斐をもって参加されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然の残るホーム近くの散歩や毎日の食材の買出し、農作業等日常的に外に出る機会を提供している。地域の行事等も積極的に参加し、楽しみ事へと繋げている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることも身体拘束と捉え、夜間帯は防犯のため施錠しているが日中は入居者の出入が自由である。入居者はディサービスへも自由に行き来し、束縛の無い日々を過ごしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まずは火を出さない努力として、自主点検を毎月行い、担当職員2名が建物の内外を項目に沿ってチェックし記録に残し、運営推進会議でも紹介している。年1～2回の防火訓練は消防署や龍田7丁目消防団と連携を図り、夜間や昼間を想定し実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好、健康状態に合わせバランスのとれた食事を提供している。ホーム農園で採れた新鮮な野菜やその都度購入した食材が使用されている。水分補給は1日1500mlと少し多めに設定し、確実に1300mlを摂れるように支援している。チェック項目も温冷、量と個人別に記入し力を入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天然木をふんだんに使用したシンプルでおしゃれな内装である。内庭を望める居室と食堂には座りごちの良いいソファが置かれ、定位置であろう場所でかわいい人形を抱かれた入居者がにっこり笑っておられる。洗面台や廊下に置かれたテーブルに季節の花がさりげなく飾られ、騒音や異臭もなく、手入れの行届いた空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は入居者や家族と相談しながら居室のレイアウトを行っている。また、コルクボードを設置し、家族の写真や作品・手紙等自由に貼ってもらうよう工夫している。おもいおもいの品が持ち込まれ過ごしやすい居室である。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム カムさあ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本市龍田陳内3丁目37-7
記入者名 (管理者)	管理者 前田 晃子
記入日	平成 20年 2月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念は、玄関のみに掲示しているため、職員が目につく場所(タイムカード横)にも掲示し、就業前に理念に目を通し、理念に則したケアを常に実施できるようにする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	ご家族や地域に顔の見えるケア及び運営を取り組み続けることが大切であるため、今後もご家族や地域と共に歩んでゆきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域行事への参加は、今までのように行っていきたい。職員の顔が分かっていたり、固定の職員が参加しているが、職員も交代で地域行事に参加できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域コミュニティーカレッジを開催することで、地域の高齢者も参加できる会を開催している。運営推進会議でも、老人クラブ連合会会長から活動内容をご報告いただき、カムさあでできることを検討する機会がある。畑仕事をしていると、苗を持って近所の方が来てくださるので、栽培方法をお尋ねするなど関わりを持つようになっている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日々のケアの中でも、ケアを振り返る機会はあるが、職員全員でカムさあを見つめ直す機会は、第三者評価の自己評価でしか時間を設けていない。そのため、現状を知り総合的な見直しの良い機会になっている。昨年の評価で、トイレに足踏み台を置くことを改善し、現在も継続している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、生活場面や行事を報告し、取り組み内容についてご意見をいただいている。会議の中で「介護業界の離職率が高く、残業も多いと聞いています。カムさあはそんなことが無い様に所長さんよろしく願います」と意見をいただき、その日の内に所長と業務内容について検討会をおこないました。評価を受けることや評価結果は次回の運営推進会議(3/14)で報告予定である。	○	運営推進会議に参加しない職員については、議事録を回覧しているが、運営推進会議内容を職員間で話し合い共有情報としていないため、話し合いの機会をもつ。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢福祉課が実施するサービス相談員の受け入れを始め、運営・サービスに関する事項は問い合わせをするなど、意見をもらいサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを用意し、契約時に説明できるよう準備している。現在対象者がいないので必要な場合は支援する。	○	権利擁護については、対象者がいないため職員へは積極的な説明をおこなっていない。権利擁護については、所長に依頼し研修会を開催したい。日ごろのケアだけでなく、ご入居者個々のマネージメントの視点を学ばせ、職員の視野を広げたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の身体拘束委員会で虐待も視野に入れ、毎月1回開催している。ミーティングや職員研修会での取り上げられることがあり、入浴時にボディチェックをおこなっている。言葉の虐待については職員の日々のケアから、言葉の虐待にならないように管理者が指導している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、内容を理解した上で、契約するよう心がけている。解約に関しては、2年2ヶ月退居されたかたが無いので、最近実施していないが、十分な理解が得られるよう説明に留意する。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で苦情を言っただけのような関わりをもっている。ケア上の不満などについては、日々お伺いし、即カンファレンスで見直し、ケアプランに反映させている。3ヶ月毎のモニタリングの際、記入していただけるようなシステムにしている。法人内で開催される、苦情処理委員会への参加と事例検討をおこなっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	発熱や体調不良など、その日に電話を入れ、経過についてもご家族へ報告している。毎月写真入の報告書を作成し、ご家族へ報告している。3ヶ月毎のモニタリング報告には、来訪していただき生活状況や認知症の進行状況をご説明している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリング時は、書面でご意見をいただくようにしている。苦情などが発生した場合は、運営推進会議で報告することになっている。第三者評価のアンケートも非常に良い機会であるため、アンケートへの協力依頼に力をいれている。苦情発生の有る無しに関わらず、定期的(週1～2回)所長を含め、運営会議を開催している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で管理者は、職員の意見を聞き反映させる必要があれば、所長との運営会議で話し、即実施している。必要があれば、所長も参加した職員会議を開催意見を求め、現場へ反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の都合に合わせ、柔軟に対応できる体制を常にもっている。勤務の時間帯を変更することに職員は協力的である。入居者を中心とした体制は、確立できている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人も馴染みの関係を理解しているため、頻繁な移動は無く、離職が少ない。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を始め、施設外研修へも参加できる限り参加させている。個人のスキルは管理者が判断し、研修会を紹介したり、時間をとり話をする時間を設けている。所長も職員教育には熱心で、場合によっては直接指導もおこなっている。その他、新人オリエンテーションにも力を入れている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人と合同イベントと開催し、それぞれの視点を持ちサービスの向上に努めている。地域にある他グループホームとの直接的な関係はないが、熊本市のグループホーム協議会へ参加している。	○ 同じ校区内でグループホームを運営しているので、地域との交流を学ぶため、地域のグループホームに現場研修に行き、地域交流の学びを深めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職場環境の取り組みとして、職員同士が日常ケアの中で褒め合うことを実施している。笑顔も多く、話し合う時間も出来るだけ取っている。プライベートでリフレッシュできるように、職員の希望休は必ずとり入れる工夫をしている。法人内でもバレーボールクラブや山岳クラブなど、クラブ活動にも参加している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	所長と管理者は、個々の職員の努力や実績を常に把握している。週に1～2回は所長と管理者で職員教育について話し合いの場をもっている。カムさあ内でも役割が決まっているため、役割に対する責任感や向上心を持つことのできる体制を継続できるよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新入居が2年2ヶ月無いが、日々のケアを行う上で、介護ニーズや困りごとを把握する必要がある。入居者自身のできる力を知り、その人らしく生活することで、リロケーションダメージの予防が不可欠である。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新入居が2年2ヶ月無いが、介護者は入居される方の生活背景を熟知されている。生きてこられた歴史の中に、介護方法のヒントが隠されている。そのため、良くお話をお聞きし、入居者の介護がスムーズに行えるように受け止める努力をする。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のその時を受けとめ、他サービスの調整や対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員や他入居者と馴染みの関係をとるには、同敷地内にあるデイサービスをご利用いただき、グループホームの方と一緒に食事をしていただいたり、散歩に出かけるなどの工夫をしている。事業所の工夫として、デイサービスの職員とグループホーム職員を兼務させ、個々の利用者の「今」に対応できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する中で、入居者さんから、調理方法や材料の切り方など、手本にしている。生活の知恵や昔ながらの教え、昔から伝わる歌、生活する上での風習など学ぶことが多い。入所者の方から、和やかな気持ちをいただき、長く生きて来られた感性に接することで尊敬の念を持つことができる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪していただく機会が多く、ケア方法は、ご家族に意見や方法を相談しながら実施している。ご入居者の情報交換をおこないながら、共に介護をおこなう、ご家族参加型のサービス提供を実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族のその時を受けとめ、より良い関係が築けるように、行事への参加や誕生会・お祝い事を個々のご家族を招きご家族主導で実施している。ご家族のお写真を部屋に貼り、ご家族の思いを支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ハガキを出したり、電話をするなどの支援をしている。馴染みの方がカムさぁを集いの場にさせていただけるよう、環境を考え、ゆっくりしていただける雰囲気を作り出す努力をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングにはテレビを置かず、会話ができるように工夫している。入居者さんが唄を歌われた場合、職員も一緒に口ずさむようにしている。重度の方もいらっしゃるため、職員が間に入り会話を仲介している。個々の思いやりを大切に、入居者さん同士の支えあいを大切にこれからも関係性を尊重したい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	最後の退居者さんが2年2ヶ月前に退居され、1年8ヶ月前に亡くなられた。退居されても葬儀には参列するように実施しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人を中心とした考え方で希望ができるだけ叶うように支援しています。食べたい物があつた場合、その日のうちにご用意して召し上がっていただけるよう努力している。ご自分の意向を伝えられない方は、表情や動き・一般状態を含め、本人の立場になり代わり、できるだけ叶えられるよう努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活様式が判らないと、その人のケアができないので、ご本人やご家族・今までご利用されたサービス事業所などにも、情報提供を依頼している。把握した内容は、情報を共有化した上で、ケアプランに必要な内容は、ご家族へ相談しながら、ケア内容をご提示している。新しい情報が得られるよう日々努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに基づいたケアの提供で、日々の変化に細心の注意を図り、1日2回(8:00、19:00)申し送りをおこない把握に努めている。有する力は、その日その日に変化するため、気なる点は記録に残しモニタリングへ反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人の今にあった介護ニーズが充足されているか、3ヶ月毎にモニタリングを行い、情報を共有するモニタリングカンファレンスを開催するようにしている。その結果は、ご家族へ提示し、モニタリング内容をご説明したのち、ご家族の意見を介護内容に反映させ、ご家族も含めたチームアプローチを展開している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人の今にあった介護ニーズが充足されているか、3ヶ月毎にモニタリングを行い、情報を共有するモニタリングカンファレンスを開催するようにしている。その結果は、ご家族へ提示し、モニタリング内容をご説明したのち、ケアプランへ反映した場合、変更のケアプランとモニタリングやサービス内容のご意見を書面でいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録用紙と詳細な記録を記載する記録と2種類用意している。できるだけ、記録を書くように指導し、情報の共有化に努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望はできるだけ受け入れるようにしている。「その人の今を」ご家族と共に支援している。外出・外食・外泊・コンサートなど施設内で簡潔できないことも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の実施において、地域消防団と連携をとり、夜間想定のもと実施したり、消防署との防災訓練など協力体制を取る努力をしている。地域保育園や小学校への出向き、世代間交流を支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	歯科の居宅療養管理指導や内科医師による居宅療養管理指導などサービス調整をおこなっている。ご入居者に今後、必要性が発生した場合は、サービスの活用支援を行う。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援者の入居がないため、地域運営推進会議以外で協働はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅で生活されていた頃の主治医をそのまま、連携を図りながら医療を受けている。ご家族からの申し出がない限り、協力病院への変更はおこなっていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>カムさあがオープンして、どなたもターミナルケアの事例がないため、職員の不安は隠しきれない。現在、ターミナルケアについてアンケート調査を行っている段階である。アンケートを集計し、職員全体で話し合う必要がある。事例検討会も必要であるため、実施する。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	長く生きてこられたため、築きあげられた感性を大切に、一人ひとりを尊重した関わりをおこなえるよう努力している。記録にかんしては、ご本人を傷つけないようできるだけ目につかないように配慮しているが、読みたい方には読んでいただけるようご提示している。立ち話の際は、アルファベットを用い、ご入居者さんの目につかない場所でおこなうよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「自己決定ができる支援」がカムさあ理念にあり、日常生活の中で自己決定できる支援をおこなっている。食事・おやつ・飲み物もできるだけ自己選択していただき、選択肢が多く選べない方には二択にして対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人の今に」対応できる支援を心がけている。できるだけ、対応出来るよう、職員全員で取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時や就寝時など、衣類を交換する際は、ご本人に衣類を選択していただいている。男女問わず身だしなみには充分配慮し、時にはおしゃれをして出かける機会ももうけている。お化粧品やお肌の手入れも大切なポイントであるため、日々取り組んでいる。理美容支援は、ご家族の協力をいただき支援するケースもある。日常的には訪問利用を活用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	要介護度平均3.4と重度化しているため、調理への集中力が継続できないようになってきている。メニュー選択は料理本を用い、ご入居者の今日お手つだいいただける場面を見極め、味見や買い物など、できる力を活かし、無理強いはないようにしている。調理を始めると匂いがするので、リビングに集まってこられる。これも、おいしく食事を召し上がっていただくポイントであると考え。	○ ご入居者の重度化に伴い、調理に参加できない方も出始めた。調理には色んな手段があるため、その方のできる力を少しでも見極め、参加していただけるよう介入方法を検討する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品は、日常的に嗜んでいただけるよう支援している。飲み物も液体やゼリーなど常時10種以上は準備できるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、繊維質の多い食事やヨーグルトの活用・腹部マッサージなど、薬に頼らない支援をおこなっているが、慢性の便秘で5名下剤を活用している。しかし、できるだけ薬に頼らない支援ができるよう日々取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のタイミングは、それぞれにお聞きして基本的には無理強いしません。しかし、数日入浴されていない場合は、ご説明しあげ、入浴していただけるよう説明します。入浴したくないとおっしゃった場合は、足浴や清拭・手浴などで対応しています。また、入浴剤を選択していただけるよう3種用意して、楽しく入浴していただけるように努力しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	高齢で重度の方はご家族と相談した上で、お昼寝(1時間)を取り入れています。体調に合わせて居室や畳の部屋を選択し、昼夜逆転しないように、運動量とのバランスに配慮しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の入居者の好みは把握しているので、その人に合った支援をしている。好みのヒントは生活歴に隠されているので、ご本人の会話の中やご家族を交えた話し合いの場など、情報が取れる場面は日々大切にしている。日常的な行動の中でも気晴らしができるが、日ごろからストレスの溜まらない(ご入居者・職員)過ごし方ができるよう努力している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「お金を持つ」「お金を使う」認知症になっても、今まで生きてきた中でつちかかってきた行動で、生活の質に大きく関わる大切な事項である。そのため、ご家族とご本人が相談しながら、一定の額を所持されている方は、できる力として共にお小遣い帳を作成するなどの支援をしている。金銭管理が難しい方には、ホームの買物をする際、レジでお金を支払っていただく工夫もしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その人の希望が叶えられるよう、出来る限り対応している。日によっては、買物にお誘いしても「行かない」とおっしゃった後、「買物に行きたい」と希望が出れば、再び買物に行くようにしている。外出したことを忘れ二度目の外出希望ができることもある。出来るだけ支援したいと考えています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お誕生日は家族と共にイベントを開催、以前通っていたレストラン等に職員付き添いで行くこともできる。コンサートに行きたいと申し出があれば、職員が付き添い参加できる体制もっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、お手伝いしていつでも掛けられるように心がけている。また、手紙は、ハガキと一緒に買いにいたり、時には代筆することもあるが、年賀状などのやり取りが続くような支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪していただいた方がくつろいで過ごしていただけるように、家族だけで居室でお話ししていただいたり、リビングでご入居者の会話を仲介しながらくつろいで頂くなど、その時々に合わせて過ごしていただけるように心がけている。飲み物などを差し上げ、ご家族が長居していただけるよう工夫をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カムさあの理念にもあるが、人として他者を拘束してはならないと、所長や職員会議の場で話が出る。身体拘束には様々な行為があり、職員が気づかない所で行っていることがあるので、管理者やリーダーは気をつけて指導している。例:外出しようとするか方へ ○○さんどこにいきますか?など。拘束をしないケアへの取り組みに努める。	○	身体拘束については、職員が気付かないうちに言葉による拘束をおこなっている場合があるので、意識をしながら身体拘束が排除できる取り組みをする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために鍵をかけているが、日中、鍵をかける行為は身体拘束ととらえ鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	こまめに所在確認を行っている。安全確認は過剰になり過ぎるとできる力をそこなうため、さりげなく見守れるよう心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各ご入居者に合わせて危険な物を見極め、ご家族と相談しながら危険因子を取り除くようにしている。例:個々の状況やご家族の思いで判断しているもの。(スリッパ・ベットなど)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を防ぐため、ヒヤリはっとの活用や事故発生時の事故に至るまでの検証をおこない事故の原因究明を共有することで再発防止に努めている。誤薬をしないよう、最新版の薬事情報をもとに3回確認するようにしている。	○	事故はどこにでも潜んでいるため、職員一人ひとりが意識しないと防ぐことができない。事故マニュアルの見直しや、事故の分析

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員一人ひとりの経験年数に応じて、個別で行っている。また、施設内研修で消防署の救命救急士に直接ABC処置の指導をもらっている。	○	緊急時や事故発生時の対応をマニュアルにはしているが、研修会を開催し、職員の不安解消に努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、防災訓練を年1～2回開催し、消防署や龍田7町内消防団とも連携を取り、一緒に実施すると共に、夜間想定や昼間の想定と状況を変えながら実施している。突発的に夜間想定と呼び出し訓練なども所長を含めおこなっている。来年度は、自治会が開催する防災訓練に参加する予定である。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについてはご家族に、随時ご説明している。3ヶ月毎のモニタリング時にも、リスクの原因となる因子についてご説明し、ご家族の意見を伺い、ケアプランに反映させられることは反映している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のケアの中で体調管理に努めているが、些細な発見が早期発見に繋がることを管理者は日々の業務の中で指導している。その他、申し送りの徹底により情報の共有化がなされている。夜間の体調不良についても、24時間体制で管理者と連絡がとれるようにしているので、状況に合わせ指示もしく、カムさぁに向いて必要な対応をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬事情報をもとに、薬と突合せせるよう業務の中に入れて入っている。薬事情報に副作用の記載があり、確認しながら薬の取り扱いをおこなっている。家族とも連携を図り、薬の変更などカムさぁと連携しながら正しい服薬ができるように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で、それぞれに合った方法を日々実施している。例:食物繊維の多い食事・腹部マッサージ・乳製品の活用・体操・定期的にトイレに座ってもらうなど。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔を清潔にする意味を説明し、口腔ケアに取り組んでいてtsだいている。口腔ケアは毎食後、必ず声掛けをしている。できるだけ、ご自分で出来るような支援を取り入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者それぞれの基礎疾患を知り、食事の内容やバランスについては気づけている。また、水分補給は、一日1,500mlを目標にイン・アウトのチェックにも力をいれている。水分は温かい飲み物と冷たい飲み物が重ならないように記載している。記載内容は、温冷・種類・mlとし、14:00にどのくらい水分が入っているか個人別でチェックし、水分が入るような工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策委員会により、各疾患毎の対応マニュアルがあり、勉強会を開催している。しかし、ホーム内へ持ち込まないことが大原則となるため、職員はもとより、ご入居者にも外出後のうがい手洗いは実施している。	○	感染予防については、感染対策委員会で研修会が開催されるため、職員が積極的に参加できるように学びの場の提供を行いたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は2日1回おこなうので、大量に買い込まない工夫をしている。出来るだけ国産のものを選び消費期限についてもチェックしている。肉・魚は直接まな板で切らず、牛乳パックの上で切り、まな板の感染防止に努めている。調理器具が日光消毒やハイターを利用、三角コーナーや排水口の残飯は都度片付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じた飾りつけやお花を植え、入りやすいように心がけている。玄関はいつもきれいに片付けていることも努力している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本スタイルとして掃除をするようにしている。日中は音楽をかけ、リラックスできる雰囲気をつくっている。生活感、ご入居されている方にとって大切なポイントであるため、ご入居者と共に物の配置やお花を飾る場所など相談しながら共同で工夫している。トイレの中に使用したオムツを置いたままにならないよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、タイプの違うソファを置き、くつろげるようにしている。また、ご入居者同士で話をされている場合は、職員が会話を妨げないよう心がけもしている。独りになることを希望できない方は、表情や状況から、居室へご案内している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や寝具は、以前使用されていた物を持ち込んでいただいている。また、居室にコルクボードを設置し、ご家族の写真やお書きになった絵、好みの写真・手紙を飾れるように工夫している。居室の配置を変更する場合は、ご家族に相談している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は小まめにおこなっている。各居室は、ご入居者が食事を召し上がられている時やリビングでくつろいでいらっしゃる時、外出時などにおこなっている。エアコンの使用はできるだけ抑え、衣類で調節している。寒くても就寝されている時に、暖房を使用せず、掛け物や湯たんぽで調整している。湿度が下がると、感染の危険性が高まるので湿度管理にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	多様な身体状況を配慮しながら、設計をしている。これからの重度化に向け、改修すべき場所が発生する可能性がある。職員にも、改修の必要性があれば、管理者へ相談するように話してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の方は、時空間の認識が苦手な特徴をもっておられます。そのため、不安になられると考え、カレンダーは大き目のもの日めくりを用意し、判る力を意識している。その他、生活習慣として新聞を読んでもらう。ご入居者を混乱させないよう、タンスの中身がわかるよう表記している方もある。できる力を職員が知り、その人に上手に介入できるよう学びを深める必要がある。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	カムさあの外周りには、果物の木が6种植えてある。ご入居者と共に果物の果実が育つ過程を楽しんでいる。1階のベランダ・2階のテラス・中庭・畑など、季節を感じながら過ごせる工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように

96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

カムさあの理念である「自らの生活のあり方を自らが決定し、質を高める」支援を基本に入居者の状態や想いに合わせたケアに取り組み、認知症ケアの確立を第一に馴染みの環境と個々の生活スタイルを尊重した「住まい」をご提供いたします。入居定員は9名で完全個室（洋室）でご入居される皆さま方のプライバシーが保て、使い慣れた家具・寝具などを持ち込んでもらうことで、安心した生活環境と空間でゆっくり穏やかに過ごすことができます。ご入居者の高齢化及び重度化に合わせ主治医・ご家族との連携を蜜におこないながら、家族参加型のサービスを提